

令和2年度

# 研修集録

第 35 号

秋田市立秋田商業高等学校





## 感 得

校 長 山 脇 聡

今年度は平成23年3月11日以降に認識させられた「心の豊かさ」の尊さを改めて学んだ一年間ではなかったでしょうか。

あの震災後、マネタリー経済（貨幣資本主義）を求めるより、目に見えない指標である「知識資本」「関係資本」「信頼資本」「評判資本」「文化資本」「共感資本」すなわち、善意や好意による自発的意志によって行う経済活動であるボランタリー経済が求められました。しかし、リーマンショック、東日本大震災の経済不況をグローバルリズムの美名のもと、数字に表される「ものの豊かさ」という価値尺度で経済再建を成し遂げようとし、振り子は再びマネタリー経済へ傾いてしまいました。

ところが令和2年は、新型コロナウイルスにより、再度、ボランタリー経済に目を向けたのではないのでしょうか。

「Society5.0」「AI社会」では将来的に高校教員は不要となるデータ（2011年米国 キャシー・デビットソン マイケル・A・オズボーン）を、我々高校教員はどこか遠くの物語として捉えていた気がします。そして、学校の臨時休校措置に伴い、ICTを活用したオンラインによる授業のあり方を真剣に議論し、学びました。その過程で社会の中に、ボランタリー経済が存在していたことに気づいたはずです。

今、ウェブの世界では、多くの人々が自発的に集まり、無償で知識や経験を出し合い、助け合う「ナレッジ・コミュニティ」が広がりを見せています。単なる知識を求めるのならば、多種のQ&Aサイトで、時間的にも、コスト的にも簡単にそれを得られる社会であることを実感したのではないのでしょうか。

それでは、教育の核心である「学校」では何を教え、育てればよいのでしょうか。

知識と体験が融合し、生きていく力である「知恵」ではないのでしょうか。

多種多様な体験学習活動により「信頼」「感動」「勇気」を育み、生徒の心の中に隠されている「生徒自身が抱いている何か」を明確（気づき）にさせ、自らが「感得」できる授業ではないのでしょうか。

授業中、生徒の顔を見てください。「感得」した生徒は目の色が変わり、学業への密度が変化・深化します。すぐにノートに書き写す生徒はまだ「知識」の段階です。何もせず、ボーッとしている生徒は問題意識を持っていません。

問題意識を持たせ、学び方を教え、多様な意見の中から自己の考え方を修正したり、深めたりして「感得」させることが高校における授業のあり方ではないのでしょうか。

そして、この学びは古来からある「弁証法的対話」そのものです。他者の意見を偏見なく聞き、その矛盾点や疑問点などを検証し、相手に質問し、回答を得て、対話の中で正しい真理に迫っていく学びです。

デジタル化された社会が与える知識の真偽を問い、知性を知恵に導き、協働性を引き出し、人間性を豊かに伸ばす波動的な学習が、AIと差別化できる授業方法ではないのでしょうか。

# 目 次

◎ 巻頭言「感 得」	校長 山脇 聡	……………	1
I 校内職員研修			
「いじめ等に対する組織的な対応について」	研修部	……………	3
II 授業公開週間について			
①実施報告	研修部	……………	8
②授業紹介	研修部	……………	12
III 報告			
1 ビジネス実践			
①AKISHOP「ビジネス実践『AKISHOP』」	商業科 大久保 薫	……………	14
②エコロジカルビジネス「エコロジカルビジネス班の活動」	数学科 野呂耕一郎	……………	19
2 センター研修			
①A講座「実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）」	商業科 石崎絵里香	……………	20
②A講座「高等学校新任学年主任研修講座」	保健体育科 加賀谷大輔	……………	22
IV 令和2年度研修対象者・研究会等参加者一覧		……………	24
V 編集後記	研修部	……………	25

## 「いじめ等に対する組織的な対応について」

講師：生徒指導主事 佐々木 ひな子 先生

### 1 実施日時・場所

令和2年7月30日（木）14：30～15：30（場所：会議室）

### 2 講演（要旨）

いじめや問題行動、人間関係のトラブルへの対応について意見交換を行い、共通実践につなげる。

### 3 内容・質疑応答

国立教育政策研究所「いじめに関する研修ツールver. 2」自己点検シートを記入し、意見交換をした。また、ロールプレイングも実施し、生徒や保護者に適切に関わる力を高める実践力が身につく内容であった。講演内容（講演資料一部抜粋）、研修会後に参加者から寄せられた質問や感想等は、以下の通りである。

#### 1 本日の研修について

#### 2 「いじめに関する研修ツールVer. 2.1」

いじめ認識  
の更新

#### 3 直接発見したときの初期対応

意見交換

#### 4 保護者への対応

#### 5 まとめ

2

#### 2 「いじめに関する研修ツールVer. 2.1」

（国立教育政策研究所）

① 「自己点検シート」に各自記入する（約5分）

② 「点検内容の解説」を読む（約5分）

③ 意見交換する（約5分）

3

#### 「社会通念上のいじめ」の例

学級やチーム内の運動が苦手な子供に対して、「おまえがいたから負けたんだ」などと、集団で継続的にはやし立てるなどの行為や、「試合に負けたお詫びにメンバー全員に1000円ずつ払え」などという言動をした。

4

#### 「法令上のいじめ」の例

授業中にAさんが発言の苦手なBさんに「Bさんも意見を言いなよ」と皆の前で強く促した。

→Aさんが好意的な気持ちでBさんに促したとしても、Bさんが「皆の前で恥をかかされた」と心身の苦痛を感じたのであれば、法令上は「いじめ」に該当する（「いじめ防止対策推進法」第2条）。

5

◆ いじめの認知に関する文部科学省の考え方

1 いじめの認知件数が多いことは教職員の目が行き届いていることのアかし

法律上のいじめに該当する事象は、成長過程にある児童生徒が集団で学校生活を送る上でどうしても発生するものであると考えています。ですから、文部科学省は、いじめの認知件数が多い学校について、教職員の目が行き届いていることのアかしであると考えています。正確に認知し、しっかりと対応していくことが大切だと考えています。

反対に、いじめの認知がなかったり、いじめの認知件数が極めて少なかったりする学校は、いじめを見逃していないかと心配しています。

いじめの認知件数が増えても保護者や地域の方々が不安に思わないよう、普段から「積極的に認知し（件数は増える）、早期対応を行っている」ことを丁寧に伝えてください。

2 組織で認知し対応することが重要～ひとりでは抱え込まない～

いじめではないかと疑われる事象に接したときは、学校に設置されている「いじめの防止等の対策のための組織」に必ず報告してください。とは言っても、日々発生する事象全てについて、組織の全メンバーが一集合することは難しいと想います。そこで、組織のメンバーの中から情報集約担当を決めたり、パソコンで共用のデータベースを作成したりするなど、全メンバーが集合しなくても機動的な対応が取れるよう各学校で工夫をしてください。重要なのは、ひとりで抱え込まないということです。原因に報告・連絡・相談し、組織として判断してください。

また、学校の組織がしっかりと機能するためには、誰もが自由に発言できることが大切です。事象に対応する中では、迷うこともたくさんあります。そんなときは「これでいじめを避けている子供を本当に守ることができるか」とシンプルに考えてください。そして疑問が心をよきったときは、いじめが重大な結果に至ることのないよう「この対応でいいんですか？」とためらわずに発言してください。

6

3 直接発見したときの初期対応

あなたが、休み時間に校内を歩いていると、担任しているクラスではないクラスの生徒Aが、生徒Bのノートを取り上げて破っているのを目撃した。その場に生徒C、Dが一緒におり、笑っている状況だった。周囲には複数の生徒たちがいた。

どのような対応をすべきか。

7

(1) まず第一にすべきこと

(2) その場で接する上での留意点

- ① 生徒Bに対して
- ② 生徒A、生徒C、Dに対して
- ③ 周囲で見ていた生徒たちに対して

2～3人のグループで意見交換をお願いします  
(10分程度)

8

4 保護者への対応

- ① SNS上のトラブルに対して保護者が強く抗議してきたケース

A先生の場合…問題点はどこでしょうか？

B先生の場合…ペアでロールプレイング

9

本校で起きた事例に近いもの

- ② 暴力を振るった生徒への対応について保護者が抗議してきたケース
- ③ 生徒へ事情を聞いたことについて、保護者が苦情を訴えてきたケース

総合教育センター  
「いじめ対応の研修資料」  
「信頼される学校を目指した教育相談の進め方  
- 児童生徒や保護者と適切に関わる力を高める教職員研修への提案 -」

10

5 まとめ

本校におけるいじめ発見のきっかけ

- ① 学校生活アンケート
- ② 本人からの訴え
- ③ 友人その他からの訴え
- ④ 保護者からの訴え

個人面談については、今回の研修のフォルダに入っている「生徒指導リーフ20」の4ページ目「無記名アンケートに続く個人面談実施の心得」が参考になります！

- ◆ 「放置した」と受け止められないように！
- ◆ 発見した生徒（あるいは先生）に迷惑をかけるようなことはありません！

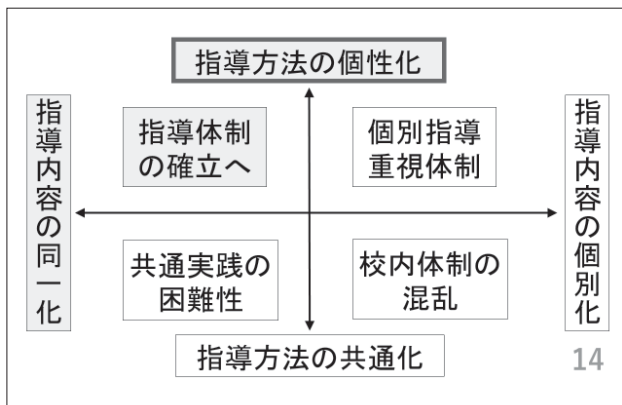
11

「何をどのように指導したか」  
ではなく、  
「指導したことがどのように生徒に届いたか」  
が重要

12

「100点満点の方策を半数の教職員で行うより、70点の方策でも全教職員で取り組むことが、学校づくりには効果的です」

13



### <感想>

- ・本校が昔から行っている信じられない指導が今はなくなり、生徒にとっては幸せだと思う。
- ・自分も少なからず対応に苦慮したことがあったので、参考になりました。
- ・ひな子先生ありがとうございました。大先生に主演男優賞をお願いします。
- ・ひな子先生のお話しとてもわかりやすく、内容も非常にためになりました。ありがとうございました。
- ・個別対応より、組織で対応することの重要性が理解できました。今回の内容を参考に対応したいと思いました。
- ・いじめについて、共通認識と共通実践が大事だということがとてもよくわかりました。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすかったです、ありがとうございました
- ・意見交換を通して、いろいろな考え方、対応が考えられることを知ることができた。
- ・いじめに対して、自分なりの理解があったつもりだが、初期対応の仕方など模範例を見てなぜそのような対応が求められるかなどの「理由」を知ることができて、対応の幅が広がった。
- ・実践につながる研修内容であった。
- ・実践的な内容だったので良かった
- ・勉強になることがありました。
- ・参考にしたいと思います。
- ・できれば採用試験前にこのような会があればと思います。
- ・このような現場に直面したら実践したい思います。
- ・生徒への指導は、スタンドプレーではなくチームプレーで行うことが最終的には生徒のためになると思うので、今回の研修で共通認識を持てたと思う。また、事例に基づいて意見交換ができ、生徒・保護者への対応を具体的にイメージすることができた。実践的な研修でとても参考になった。
- ・研修というと堅苦しく、嫌なものですが、今回の研修は楽な気持ちで臨めました。ただし、「いじめ」に関しては改めて重要なことであり、対応を一つ間違えば大変なことになると再確認することができ、大変有意義な研修となりました。昔と今、今とこの先、いつもと同じ指導ではなく、目の前にいる生徒や保護者に合った対応を常に考え、工夫し、周囲の先生と協力して組織としてやるようにしていきます。
- ・今後もそのようにしていく必要があると感じました。ありがとうございました。
- ・その人その人で言葉の選び方や対応の仕方は異なってくると思います。そういう意味でも組織での対応は大切だと思います。すぐに実践できる事例で、とても参考になりました。ありがとうございました。

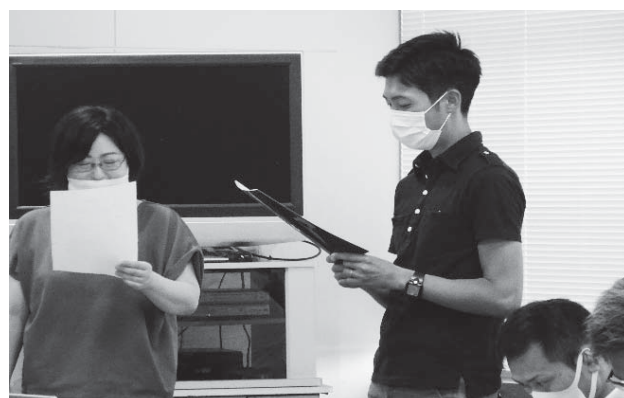
- 
- ・意見交換ができ充実感があつた。
  - ・今後教員生活を続けていく上で必要になってくることなので大変勉強になりました。事例を用いて具体的な対策や対応例を学ぶことができ、よかったです。いざ自分に同様の事例が起こったときに今日行った研修を生かして冷静に対応していきたいと思います。
  - ・周囲の先生と話す時間や話し合った意見を聞く時間があり、様々な考え方を聞くことができ、とても参考になりました。また、本校で起きた事例に似たものもあり、非常にわかりやすかったです。保護者対応の際に参考にさせていただきます。ひな子先生、お疲れ様でした。ありがとうございます。
  - ・事例①をお互いに読み合うことで、保護者の気持ちがスッと心に入ってきて、保護者が誤解してしまう心情や、それを解きほぐすコツのようなものが体感できました。
  - ・ひな子先生の生徒や保護者への対応を昨年度たくさん見させていただき、とても勉強になりました。
  - ・現在の生徒への対応が、適切な部分が多いことに気づきました。今後も生徒を守る視点で、対応をしていきたいと考えています。
  - ・今回の研修を通して知ったことが2つあり、非常に参考になりました。また、ひな子先生の話の上手さも勉強になりました。講師を引き受けてくださったひな子先生に感謝をします。
  - ・SNSだけではなく、今後様々ないじめの形態がでてくると思う。その際は焦らず、初期対応をしっかりし、学校全体で対応できるようにしていきたい。
  - ・大変わかりやすく、実感をともなった講座でとても参考になりました。普段、改まって、いじめのことを話す機会も十分にあるわけではないので、周りの先生と意見を交換したり、別のグループの先生の話の聞いたことも大変良かったと思います。本当にありがとうございました。
  - ・非常に参考になりました。
  - ・今後どの生徒にも起こりうることでもあるので、とても参考になりました。また、改めて、いじめについて注意喚起していこうと思いました。
  - ・事例研究が参考になりました。普段から気をつけて、特に保護者との関係を良好に保ちたいと思います。
  - ・非常に勉強になった。生徒指導も組織的に対応しなければならないことを再認識した。ひな子先生の説明もわかりやすかったです。ありがとうございました。
  - ・大変参考になった。今後の指導に活かしたい。
  - ・いじめに組織的に対応する。本校の取り組みについて突っ込んだ話し合いが必要ではないでしょうか。
  - ・全員参加の講習で、大変良かったです。ありがとうございました。
  - ・佐々木先生、お疲れ様でした。有り難うございました。
  - ・具体的な実践例があり参考になった。
  - ・いじめについての実践例があり対応の仕方が深く学べた
  - ・具体的な事例で意見交換したり、ロールプレイングをしたりして、非常に活気のある研修であったと思います。これから実際に起こりそうなことだな、と思いながら研修を受けることができました。とても実践的な内容でした。
  - ・「いじめに関する研修ツール」を初めて知りました。自己点検シートに答えることで、自分の考え方を確認するよい機会になりました。また、事例研究が本校の実態に近いものだったので、大変参考になりました。今日は、ありがとうございました。
  - ・自分自身にいつでも起こりうることなので、よく考えて研修に臨むことができました。実践になる研修でした。



- ・いじめについての認識は、それぞれ違う認識になってしまう可能性があるが、共通認識を持つことが組織的な指導につながるため大変有意義な研修になりました。
- ・最後のプレゼンの組織で対応すること、すなわち、すべての教職員が同じ方向性で、いじめ案件の報告書を書けるという認識が持てたか、そこを聞きたいと思います。
- ・自己点検シートの質問項目や事例について意見交換をする時間もあり、考えさせられる有意義な研修だったと思います。
- ・実践にもつながる研修だったと思います。ありがとうございました。
- ・大変参考になる研修ありがとうございました。年1回と言わず、様々な事例について何度か実施していただければと思います。

#### <意見交換・助言>

- ・いじめるといじめられる子は必ずしも決まっているわけではない。
- ・解説を2回読むと、2回目に答えが変わってしまう。
- ・「法令上のいじめ」を説明して保護者に納得させるのは、非常に困難。いじめは、積極的に認知し最初の段階から、組織として対応していく。
- ・「共通理解」ではなく、「共通実践」である。「指導内容の同一化」が大事。



# 授業公開週間 実施報告

研修部

I 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

II テーマ 「生徒の思考を深める授業展開  
～授業の流れを明示して、学習意欲を喚起する～」

III 期 間 10月26日（月）～11月20日（金）  
※簿記検定対策特別時間割を含む

## IV 授業するに当たっての重点的取り組み事項

- ①【本時の目標】を提示する。
- ②【授業の流れ】を簡潔に明示する。
- ③生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
- ④生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。  
(グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など)
- ⑤【本時の目標】に対する「振り返り」をする。

## V 実施方法

- (1) 期間中、各教科代表者1名以上（今年度研修対象者は除く）が、アピール授業を行う。なお、商業科に関しては分野ごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。  
その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。  
アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマークをするとともに、「アピール授業一覧」に授業内容等を記入する。
- (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上（家庭科・芸術科は他教科2時間以上）の授業を参観する。
- (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよいが、授業時間の半分（25分）は参観する。参観する際のポイントは『参観シート』に記載。
- (4) 参観時には『参観シート』を持参し（1授業につき1枚）、記入して『参観シート提出袋』（教頭席前）に提出する。できるだけ当日提出する。提出状況で参観者を掌握する。研修部でマークシートを読み取った後、授業者へ『参観シート』を渡す。
- (5) 授業変更等がある場合
  - ①期間中のお出張・年次は、できるだけ授業変更する。
  - ②変更等は、時間割変更黒板に掲示する授業公開週間用時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。
  - ③やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。

## VI 実施状況—アンケート結果から

### 「授業公開週間」アンケート等集計結果 (R3.1.25)

研修部

回答数 44人/45人 (98%)

授業参観者数 44人/47人 (94%)

自教科 44人/47人 (94%)

他教科 43人/47人 (91%)

### 担当教科

国語	5	数学	4	英語	5	地歴公	3
理科	2	商業	19	保体	4	家庭	1
						芸術	1

### 『参観シート』集計結果

#### 授業参観教科時数

国語	5
数学	10
英語	10
地歴公	12
理科	5
商業	30
保体	6
家庭	5
芸術	2
<b>合計</b>	<b>85</b>

#### 授業参観した日

10月26日	月	1
10月27日	火	0
10月28日	水	1
10月29日	木	0
10月30日	金	4
11月2日	月	5
11月4日	水	0
11月5日	木	0
11月6日	金	2
11月9日	月	0
11月10日	火	0
11月11日	水	10
11月12日	木	2
11月13日	金	17
11月16日	月	3
11月17日	火	3
11月18日	水	13
11月19日	木	10
11月20日	金	14
<b>合計</b>		<b>85</b>

#### 参観校時

1校時	11
2校時	17
3校時	21
4校時	12
5校時	11
6校時	13
<b>合計</b>	<b>85</b>



### 『事後アンケート』集計結果

#### 参観授業内訳

参加時数	自教科	他教科	合計
5以上	0	0	78
4	0	0	
3	0	1	
2	5	5	
1	33	34	7
未参観	3	4	

- ・日商簿記検定の特割でうまく時間がとれなかった。
- ・特別指導の生徒対応があり参観できなかった。
- ・特割と重なり、授業・補習等の準備のために行けなかった。

### 質問内容

#### ◎芸術科・家庭科以外の先生への質問

##### (1)組織として取り組むことができたか

教科全体で取り組んだ	11
同一科目担当者とともに取り組んだ	12
未回答	7
取り組んでいない	5

##### \*「取り組んでいない理由」

- ・時間不足。
- ・急に担当者が変更になったため時間がとれなかった。

(2)教科内で科会を開いたか（教科主任）

はい	3
未回答	0
いいえ	11

\* 「開かなかった理由」

- ・時間の確保ができなかった。
- ・参観後の意見交換を後ほど行う予定。
- ・特割など多忙のため。
- ・紙媒体にして回覧した。

◎実施時期及び期間に関して

(1)実施時期について

今のままで良い	37
変えた方がいい	6

- ・検定が近くない、特割ではないところ。
- ・9月頃。11月は商業科は本当にきつい。
- ・2学期考査後もしくは10月頃。業務が立て込む為。

(2)実施期間について

今のままで良い	36
もっと短い方がいい	4
もっと長い方がいい	0

- ・7日間位。期間が長いとゆっくりしてしまうため。
- ・10日間位。長い割に効果がなかったと思うから。
- ・2週間くらい。期間を長くとっても前半動きがない。

◎自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

- ・ICTの活用。実物投影により、教員の手元を映し、同じような解法や解答の導き方をすること。
- ・事前に学んだ内容の所を生徒に授業させる。生徒の理解度をはかることができ学力向上に繋がると思った。
- ・PCを取り入れた授業を少しずつ学びたい。
- ・総合実践。生徒同士が互いに発言し合い、能動的であった。
- ・小山先生がIpadを活用して板書を行っていて効率的好いと思ったので、自分の授業でも活用してみたい。
- ・大久保先生の授業で、スライドを使って効率よく、クイズを取り入れながらテンポ良く授業をしていて参考になった。
- ・何かの指示を出した時に、取り組む時間をストップウォッチで計り、テンポ良く進行させる手法。
- ・他の人が書いた文章をまわりに次々と回して読ませる方法。
- ・プロジェクトの使い方を覚えて、視覚的に理解させることができるようにしたい。
- ・1つの課題に対して各生徒が意見を出し合いながら解決していくところ。（理科や数学で）
- ・ニュースで取り上げられている事を授業に取り入れたい。
- ・奥山先生の、ペアになって相手の話を聞き、聞き終わったら拍手する「傾聴の手法」。
- ・小林先生の地理の授業。生徒が様々な情報を理解した上で整理し、プリントをまとめる活動。
- ・ウォーミングアップでペアになって身近な話題を話す活動。
- ・ペアになってお互いに問題を出し合う際、答える生徒は起立する。
- ・生徒の相互評価から他者の目を意識させる指導。
- ・システムティックな授業を意識することで時間のリズムを作る。
- ・3F総合実践の作品制作、発表、相互評価。コースの特性を生かしてさらに深める工夫がされていた。

## ◎自分の授業で改善したいこと

- ・本時目標や提示の仕方、生徒の考えや意見を積極的に取り入れること。生徒の興味を引き出す発問。
- ・アナログにはアナログの良さあり。内容の改善にもっと工夫が必要。
- ・84名の一斉授業なのでTTの先生方との連携や効果的な指導。
- ・板書がうまくなりたいとずっと思っているが、センスもあると思われ、なかなか改善できない。
- ・今後生徒個人にタブレットを配付するなど聞くと、教科書やノートも不要になってくるのだとすれば不安。大幅に改善せざるを得ないと思う。
- ・授業の最初のウォーミングアップで、簡単な会話の活動を毎回行うようにしたい。
- ・英語は4技能を総合的に伸ばすということが大事なので、もう少しwritingで表現させる場面を増やしていきたい。
- ・個々人の理解度を把握しながらのさらなる個別指導。
- ・成績上位者にとって、もっとchallengingな授業になるようにすること。
- ・本時の目標の提示が疎かになっている点。
- ・1時間の構成をもっとしっかり組み立てたい。
- ・生徒に考えさせる授業。
- ・コロナウイルスの影響で難しいところもあるが、話し合いや発表などに取り組んでいきたい。
- ・生徒の思考を深めるためには安心して授業に参加できる雰囲気が必要であり、自由な発想を持つには安心=心のゆとりが大切だと思った。自分の授業もそうなるように改善したい。

## Ⅶ おわりにー

授業公開週間実施9年目となった。例年、6月と11月の2回実施していたが、今年は、コロナ禍の影響により、年度当初に臨時休校があったりで、1回しか実施できなかった。代わりに、いつもより幾分期間を長くとしたが、実施期間についての記述からもわかるように、逆に参観意欲の低下につながったようで、参観率100%を達成することはできなかった。今後実施を継続するにあたっては、何かしらの対策をとる必要があるのかもしれない。

# 授業公開週間 授業紹介

研修部

10月26日(月)~11月20日(金)

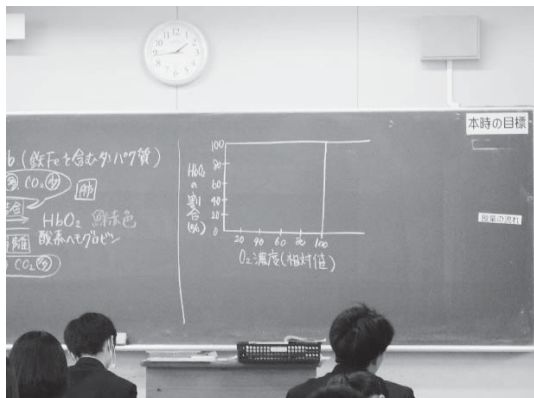
## ○理 科

高田冬深先生 11月11日(水) 5校時 3B生物基礎「酸素解離曲線」

### 〔参観者の感想〕

- ・3Bの生徒の様子をみる事ができて良かったです。残り少ないですが、よろしくお願ひします。
- ・要点が分かりやすく、見やすい板書でした。
- ・生徒同士で相談し合う場面もあり、活発に考えを話し合っていて良かったです。
- ・板書(色使い、グラフ等)がきれいでわかりやすく、素晴らしいと思いました。また先生が質問を投げかけていた時、生徒たちがパッと話合う姿がとても印象に残りました。質問を板書し、考える点を明確にしているところもわかりやすく、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。
- ・グラフの見方を丁寧に螢雪していました。秋商生はグラフの読み取りを苦手とする生徒も多いので、自分で描かせてしっかり説明することが大事なのだと思いました。ありがとうございました。

### 〔授業の様子〕



## ○商業科

小林克先生 10月30日(金) 1校時 3C総合実践「演習5の対外事務」

### 〔参観者の感想〕

- ・普段と違い、真剣に取り組んでいる姿が新鮮だった。
- ・机間指導や生徒への声掛けを細やかに行っており、生徒たちも自分で考えて熱心に授業に取り組んでいました。ありがとうございました。

### 〔授業の様子〕



---

## ○国語科

奥山桃子先生 11月2日(月) 5校時 3A現代文「周りの人の意見文のよいところを見つける」

### 〔参観者の感想〕

- ・「周りの人の意見文がよいところを見つける」という学習目標で、どのように生徒を動かして他の人の意見文を読ませるのかを見せていただきました。座席の列ごとに読ませる方法があるところを勉強させていただきました。自分もやり方を工夫して授業に取り入れてみたいと思います。
- ・生徒が自主的に取り組み分からない所などを生徒たちで解決しようとする姿勢がよかった。
- ・生徒も集中して取組んでおり、自己のふりかえりと他者のふりかえりを比較して反省できる点が良かったと思います。
- ・ペアワーク、列毎の回し読み、発表と適度に動きのある授業展開で生徒も集中力を欠くことなく取り組めていました。特に「傾聴の仕方」が参考になりました。「意見文」を描いただけで終わりにせず、新たな切り口でより深く考えさせることに成功していたと思っています。指示の仕方も丁寧でありながら過剰でなく、生徒の様子を静かに見守っているところなど見倣いたいと思います。

### 〔授業の様子〕



# ビジネス実践『AKISHOP』

商業科 大久保 薫

## 1. はじめに

本校では平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立てて商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。

この活動の目的は、「主体的に考え、地域に貢献できる意欲と知識をもった生徒の育成」である。そのために、自分と仲間・自分たちと学校外の人々・自分たちと自然の3つのつながりを意識して活動するとともに、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の3つを身につけた社会人となることを目指している。

今年度のテーマは「飛翔」である。生徒の投票により決めたものである。今年度が本校の創立100周年であること、AKISHOPも来年度には20周年を迎えることから、築きあげてきた歴史をより発展させたいという願いが込められている。

## 2. 今年度のスケジュール

- 4月 生徒・職員への希望調査  
ガイダンス、担当班発表
- 5月 企業への挨拶、企画書作成
- 6月 商品開発、試作品制作
- 9月 商品完成、商品名・売価設定
- 10月 店舗準備、本番、決算報告
- 11月 報告会

## 3. 今年度の取り組み

### 開発課

総菜・菓子・秋田土産品の開発

### 広報課

- 活動の様子・開発商品の写真撮影  
ポスター作成
- テレビ・ラジオ・フリーペーパーでの開催告知・開発商品やイベントの紹介
- 1年生開発バナナボートの販売
- 100周年記念グッズの販売

### CM課

AKISHOP・秋田の良さを紹介するCMの制作

### イベント課

AKISHOPの集客力向上・秋田の良さをPRするためのイベントの企画と実施

### 地域貢献課

秋田商業高校運動教室の企画と実施  
本部

- AKISHOP全体の企画・運営
- 販売ブースの企画・調整
- 1年生開発バナナボートの販売

### エコロジカルビジネス部

- 秋田国際ダリア園のダリアの無料配布
- 秋田杉の間伐材を使ったエコ箸づくり体験コーナーの開設
- フリーマーケットの開催

## 4. 学習の様子

今年度は探究の時間を充実させたいと考え、調べ学習ができるようにコンピュータ室をあらかじめ班に割り振りをした他、2時間続きの時

AKISHOPでは来場していただいた皆様に安心してお楽しみいただけるよう、感染症予防対策を実施しています。  
マスク・フェイスシールドの着用 定期的なアルコール消毒 間隔を空けての実施

秋田市立秋田商業高等学校 〒010-1603 秋田市新開平1番1号 http://akisho.ed.jp/ TEL.018-923-4308

■イベントタイムスケジュール		■会場案内図	
9:30	開会セレモニー&イベント内容の紹介	秋田駅前	秋田駅前
10:00	やまぼと太鼓	秋田駅前	秋田駅前
10:30	↓	秋田駅前	秋田駅前
11:00	開発商品の紹介	秋田駅前	秋田駅前
11:30	↓	秋田駅前	秋田駅前
12:00	上米町一丁目年會合 他	秋田駅前	秋田駅前
12:30	↓	秋田駅前	秋田駅前
13:00	やまぼと太鼓	秋田駅前	秋田駅前
13:30	↓	秋田駅前	秋田駅前
14:00	ゆるキャラとの撮影会	秋田駅前	秋田駅前
14:30	閉会セレモニー	秋田駅前	秋田駅前
15:00	閉会セレモニー	秋田駅前	秋田駅前



間を設け、学校外に調査や見学に行きやすくなるように配慮した。ところが、年度当初は新型コロナウイルスによる休校で授業がなくなり、外部との接触や生徒同士の密を回避しなければならず、多様な学習形態が難しく、探究活動もなかなか深められなかったように思う。その中でも、創意工夫して外部施設での体験活動や学習、校外での宣伝活動を行う班が見受けられた。

## 5. 新型コロナウイルス対策

政府や県の対策本部が配布している資料などを参考に検討を重ねた。多くの人間が関わることや屋外での活動を想定した物品が必要であったが、国からの補助金により購入が可能になった。

例えば飛沫防止パネルは、屋外でも使用可能にするために、風で倒れないように机に固定する穴を開けたり、立って接客するために縦長に設置できるような工夫を考えたり、商品やお金の受け渡しを可能とするために、机から隙間を空ける様式を考えたりと、AKISHOP用に形状を考えた特注となった。前例がない中での準備であり、他の手立てや相応しい物品があったかもしれないが、コロナ禍により思うように物品が購入できない中での工夫であった。

行き届かない面が多々あったが、何事もなく実施できたことに一安心したこと、準備において協力してくださった事務部や業者の方々、参加した生徒や職員や来場者など関わったすべての方々のご理解とご協力があったことに感謝したい。

分類	店舗名
飛沫感染対策	・フェイスシールド ・飛沫防止パネル
感染対策	・ゴム手袋 ・マスク・除菌シート
接触感染対策	・手指消毒剤
ソーシャルディスタンス	・会場配置、設営形態 改変 ・交代参加制導入
来場者への対策依頼	・チラシ改変
人数コントロール	・飲食スペースの改変
接客の工夫	・商品や金銭の受け渡し等の事前指導 ・各班へ健康状態、消毒の有無、服装等のチェック表の配布

## 6. 当日の様子

10月17日(土)秋田市民市場、秋田駅西口大屋根下、アゴラ広場、ぼぼろード、学校の5会場で開催した。当日は雨天とこの秋一番の寒さであったが、アゴラ広場で予定していた演目を大屋根下で実施するなどして、すべての班の企画が実施できた。

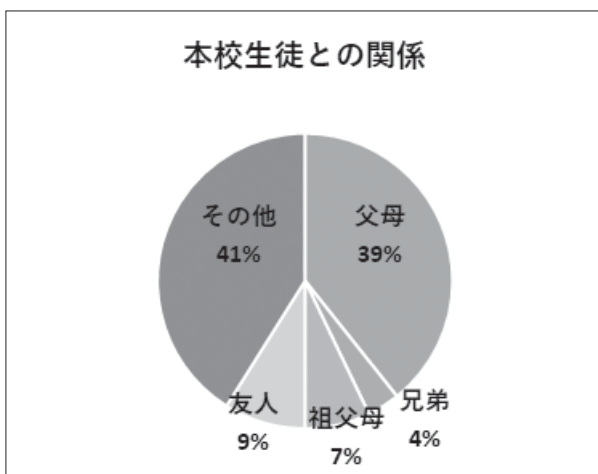
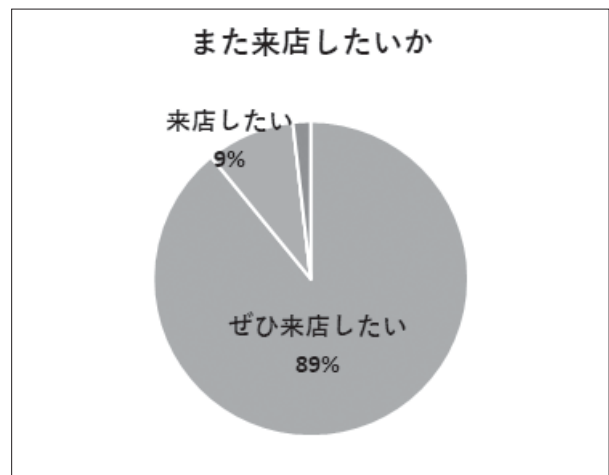
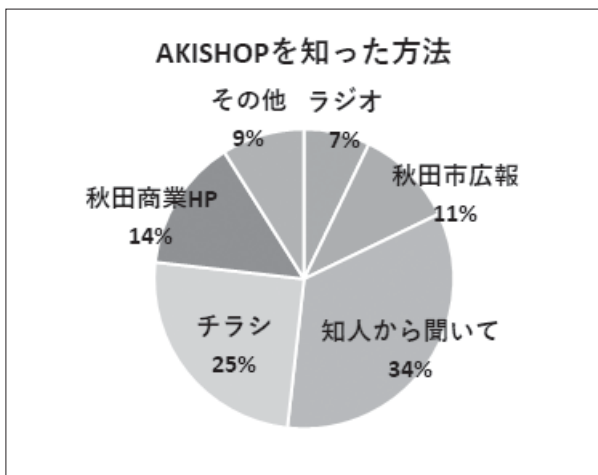
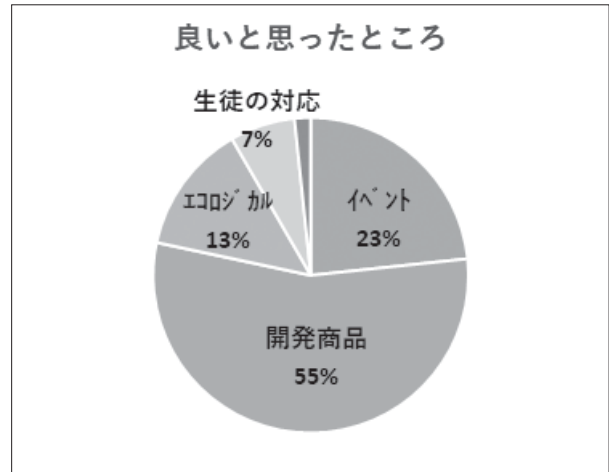
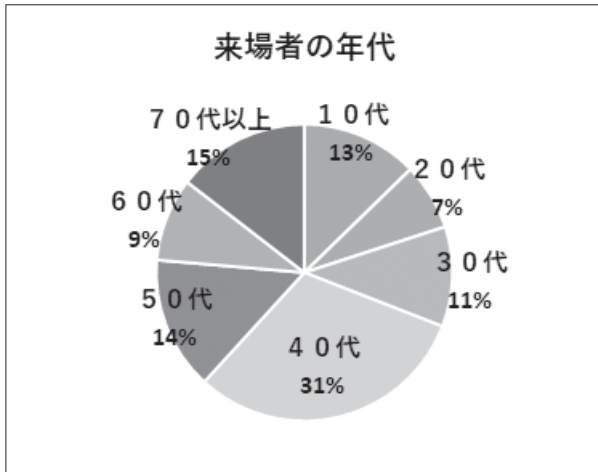
準備した商品数は、開発商品2,110個(昨年度3,855個)、受託販売商品275個(昨年度675個)の計2,385個であり、昨年度比約2,100個減であった。これはコロナ禍により例年通りの集客が見込めないことを想定した数を、各班が考えたものだが、結果として、ほとんどの班が2時には完売し、2時半に終了する形となり、地域の方々や保護者や卒業生からたくさん来場していただくことができた。

## 7. 課題

来年度AKISHOPは20年目の節目を迎える。AKISHOPの創設当初は教科横断型の学習をするという目的の下、各班が様々な学習を考えて活動していたようだ。商品開発を行う班は一部であったものの、その活動は主体的であり、協力企業は自ら開拓し、商品開発は企業に数回にわたり出向き研修をし、一緒に試作品を作ったと聞く。そうして長年実施してきたノウハウや企業との信頼関係が蓄積し、形を少しずつ変えて今のAKISHOPがあると思う。さまざまな努力や継続により、今の形が作り上げられたことに尊敬の念をもつとともに、これまで培ってきた生きた知識や経験を継承しながら、いかに学習を深め、充実した探究をし、深化と進化ができるのかを考えていく必要がある。また、新型コロナウイルス対策についても引き続き新たな課題として考えていかなければならない。

今年度のAKISHOPは「NPO法人 地産地消を進める会」主催の「あきた産フェア」と併設する形で行ったことで、コロナ禍で人通りが少なくなった駅前を地域の人々と盛り上げる形で実施できた。秋田県唯一の商業高校として、地域企業や団体と協力しながら地域経済を活性化していく役目を担っていることを再認識した。

## 8. 来場者アンケートの結果



## 9. 活動の様子



コンピュータ室での活動



F M秋田 気分屋食堂（広報2班）



秋田市新屋ガラス工房（ギフト3班）



A B Sラジオ タマリバ（広報2班）



秋田市民俗芸能伝承館（イベント4班）



秋田商業高校体育教室（地域貢献課）



# AKISHOP を成功へ導け！

	CM 班	広報②班	イベント①班
活動内容:	AKISHOP の宣伝となる CM を作るため、練習を積む	テレビやラジオ、雑誌などメディアでの広報活動	キッチンカーで販路を広げるため、パソコンで売れるものを探る
目標:	競合の方に来ていただけるようしっかりとした CM を作る	昨年よりも来てくださる方を増やすこと	例年ない AKISHOP
楽しみたいこと:	秋田商業のよいところ		
TARGET:	T 広範囲の方々に向けて		子供から高齢者まで広範囲
苦労した点:		協力して下さる企業との調整	協力して下さる企業に電話をすること

	イベント②班	イベント③班	イベント④班
活動内容:	昨年のイベントを参考に、みんなが楽しめるイベントを行う	当日の担当についてのポスター作り	当日に行う準備と販売子の美観、みなさんへアピールできる、練習を積む
目標:	みんなが楽しめるイベントを目指す	当日、多くの人に楽しんでもらえるように、準備として目を引くポスターを作る	イベント 4 班の中で一番の売り上げを目指す
TARGET:	販路で楽しめるイベントを目指す		子供からお年寄りまで広範囲の方
苦労した点:	当日の天候等、先のことが多く準備を進めなければならない	このコロナウイルスの中で、当日の動きをきいて行動すること	先生とのコミュニケーションをすすめること、当日の動きがやりくりまで決めなければならない

活動紹介ポスター（広報 1 班）



AKISHOP CM (CM 課)



新屋地区のやまばと太鼓（イベント 2 班）



ぼぼロードでの販売（ギフト 2 班）



マスコットでの接客（イベント 3 班）



報告会の様子（総菜 3 班）

## エコロジカルビジネス班の活動

数学科 野 呂 耕一郎

今年度のエコロジカルビジネス班は、3年生11名、2年生11名の合計22名で活動した。それぞれが自分の役割を見つけ熱心に取り組んだ。

活動は次の3つである。1つめは「環境問題について学ぶ」、2つめは「環境スクールmanifestoを作り主権者教育を交えた活動」、3つめは「AKISHOPでのダリア配布、エコ箸作り、フリーマーケット」である。

まずは「一般社団法人あきた地球環境会議」にご協力をいただき、様々な環境問題について学んだ。気候変動、エネルギー、廃棄物、SDGsのような話題に講師を派遣していただいた。講座のタイトルを並べると「環境問題×起業」、「木はがき作りから学ぶ森林保全」、「SDGsを自分ごとに!」、「もっと知ろう!気候変動とエネルギーのこと」、「あきた次世代エネルギーパーク視察見学」「環境×国際協力」とたくさん学んだ。

次は『気候変動対策×主権者教育』プロジェクトと題して取り組んだ。能代高校の東海林先生を講師に迎え、「地球温暖化による気候変動の現状」、「環境manifestoの作成」とご指導をいただきながら進め、これまでに学んだことを活用し、本校において実現可能と考えられる環境スクールmanifestoを各班で作成した。生徒が4つの班に分かれ自由に考え、秋田商業高校ができることを秋商生に提案した。いくつかを紹介すると「各教室にグリーンカーテンを設置し、CO2を削減する」、「各教室にリサイクルBOXを設置し、紙の再利用を促進する」、「エアロバイクで発電する」、「朝学習の廃止⇒無駄なプリント削減」など生徒たちは、これまで学んだ活動を通して活発に自由に話し合い、各班がそれぞれの案を提案した。完成後は「秋田商業高等学校環境manifesto」としてまと

め、1年生に模擬投票で最適なmanifestoを選んでもらった。選挙は秋田市の選挙管理委員会の方々にご協力をいただき、本物の投票所と同様の環境で行われた。これを通して同時に1年生には主権者教育として活動をしてもらった。

AKISHOPではダリア配布、フリーマーケット、エコ箸作り講座の3つの班に分かれて活動した。少ない準備期間ではあったが、生徒たちは各人が自分の役割を見つけて頑張り、それぞれが自分なりの達成感を得たものと思う。AKISHOP当日は全体にコロナウイルス感染の影響か人出は例年より少なく、苦戦した状況であったと思われるが、感染対策に気を遣いながら最後まで生徒たちは頑張った。

一年間の活動を通し、今年はコロナウイルス感染拡大防止のための休校もあり、例年より活動期間が短く、また、感染対策を講じながらの活動で外部からの講師を迎えることにもいろいろな問題があった。また、AKISHOPでは特に当日は多くの一般の人たちと接触することから、感染対策が重要となり大変であった。このような状況でも生徒たちは前向きに取り組み、また、例年以上に多くのことを学び、体験できたと思う。これを今後のそれぞれの活動に活かしてくれるものと信じている。

## 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）

商業科 石 崎 絵里香

### 1 はじめに

本講座の研修目標は、「学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付ける。」ことであり、初めてクラス担任をもつものに対して、すぐに実践しようと思える内容が多く貴重な機会であった。

### 2 講座の内容

#### (1) 保護者対応と連携

保護者と連携する意義には二つの側面がある。一つは、生徒の精神的発達を促したり問題行動を未然に防止する側面、もう一つは、少年非行・問題行動に適切に対応していく側面である。近年では、経済的理由や価値観の多様さなどにより保護者との関わりが難しいと感じる声が多いという。保護者との信頼関係を気づくためには、何事も生じてないときによい関係性を結ぶ事が大切である。「直接関わるができる機会を生かす」「情報提供をこまめに行う」この2点がポイントだという。また、親自身が知らなかった我が子のよさを教師から教えられることは、保護者にとってもうれしいことである。不信感を与えないように、すべての保護者に対し同じタイミングで情報開示することも大事である。

保護者の苦情・要求等に対しては、教師を困らせる、困った保護者というのは「困っている保護者」である場合が多い。「親は学校が指導する対象ではない。子育てに奮闘しているれっきとした一人の大人である。」というモンスターペアレンツの第一人者である大坂大学大学院の小野田正利教授の言葉が紹介され、「保護者と話をするとき、どんなポジションで話をしていますか?」という問いが投げかけられ、今までの保護者対応を考えさせられた。大事なポイントは、「傾聴」と「共感」と「整理」である。保護者と連帯感を生み出し、チーム学校として対応することが大切である事を再確認した。

最後に、ペアで教職員役と保護者役に分かれてロールプレイを行った。それぞれの立場から事象を考察することで、どうしてそのような結果になってしまったのかを客観的に考え、今後の自身の言動に注意を払うきっかけとなった。

#### (2) 学校組織の一員として－学校教育目標とホームルーム経営－


組織マネジメントから学校マネジメント、学校教育目標に到達するため、特に何に（どこに）力を入れるかを示した重点事項について説明を聞いた。HR（ホームルーム）経営の基本的な考え方として、「なんとなく」ではなく、「○○のようなクラスを経営したい」と客観的に評価できる経営案を作成することが大切である。PDCAサイクルを用い、学期ごとや連休までといった期間の中で分析をし、強みを生かしたHRづくりをすることの大切さを知った。また、分析方法はSWOT分析を用いると、クラスの特徴づくりに生かせるポイントや問題解決すべき事柄がわかる。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業構想と実践

各教科ごとに指導主事の先生と授業構想を練った。「主体的・対話的で深い学び」は知識の理解の質を高め資質・能力を育むところにある。そのためには、授業・単元や科目の学習を通して「何ができるようになるか」を明確化させるところにある。まずは、「何を学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業改善に努めなければならない。授業改善においては、「学習者の視点」と「授業者の視点」から考えることで、何を取り組めばよいか明示的に示される表となり、国立教育政策研究所からリーフレットとして公開されている。例えば、主体的な学びとは、粘り強く取り組む姿勢、対話的な学びとは、子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深めること。と言ったように、どのようなポイントで授業を構築すればよいのかが、わかりやすく明示されている。

3 まとめ

採用2年目で初めてクラス担任をもつ教諭を対象とした講座内容で、実に有意義なものであった。私は、旧3年研を行う予定の年に産休を取得したため、4年目での受講となった。クラス担任は今年2回目の経験で、1年生の担任経験しかないが、今後、2・3年生のクラスを受け持った際には、進路等について保護者と接する機会も増えていくだろう。教師として、生徒を第一に考えるという視点もちつつ、その生徒の将来を見据えた指導を今後も行っていきたいと感じた。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学ぶことに興味や関心を持つ</li> <li>● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける</li> <li>● 見通しをもつ</li> <li>● 粘り強く取り組む</li> <li>● 自己の学習活動を振り返って次につなげる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既習事項を振り返る</li> <li>● 具体物を提示して引きつける</li> <li>● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する</li> <li>● 子供が自らめあてをつかむようにする</li> <li>● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる</li> <li>● 子供が自分の考えを持つようにする</li> <li>● 子供の思考を見守る</li> <li>● 子供の思考に即して授業展開を考える</li> <li>● 子供の考えを生かしてまとめる</li> <li>● その日の学びを振り返る</li> <li>● 新たな学びに目を向けさせる</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める</li> <li>● 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める</li> <li>● 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める</li> <li>● 先哲の考え方を手掛かりに考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 思考を交流させる</li> <li>● 交流を通じて思考を広げる</li> <li>● 協働して問題解決する</li> <li>● 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる</li> <li>● 知識を相互に関連付けてより深く理解する</li> <li>● 情報を精査して考えを形成する</li> <li>● 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資質・能力を焦点化する（つけたい力を明確にする）</li> <li>● 単元や各授業の目標を把握する</li> <li>● ねらいを達成した子供の姿を具体化する</li> <li>● 教材の価値を把握する</li> <li>● 単元及び各時間の計画を立てる</li> <li>● 目標の達成状況を評価する</li> </ul>

# 高等学校新任学年主任研修講座

保健体育科 加賀谷 大 輔

## 1 はじめに

本講座の研修目標は、「学年経営に関する理論と実践の在り方についての研修を通して、実践的な指導力を高める。」ことであり、学年主任という責任の重さを考える貴重な機会となった。

2 期 日 令和2年6月25日（木）

## 3 内 容

- (1) 講義「望まれる学年主任像と学年主任の役割」  
秋田県総合教育センター スーパーアドバイザー 石黒みどり氏
- (2) 講義・演習「学年経営と組織マネジメントの基礎」  
秋田県総合教育センター 主任指導主事 羽深康之氏
- (3) 講話「思春期の揺れと成長を共に歩む」  
秋田赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山真理子氏

## 4 概 要

### (1) 望まれる学年主任像と学年主任の役割

学年主任は、生徒や保護者、担任・学校から様々なことを期待されている。その職務を遂行するためには、常にアンテナを高くし、危機管理意識を持つことはもちろんであるが、自他共栄の心を持って、報告・連絡・相談を徹底することも大切である。

＜期待されるイメージ＞ リーダー プランナー

＜望まれる学年主任像＞ 見回り人 常駐人 気配り人 健康人

＜学年主任の力＞ 問題解決能力 連絡調整力 指導助言力  
リーダーシップ 企画力

### (2) 学年経営と組織マネジメントの基礎

学校組織マネジメントとは、学校に関与する人たちのニーズに適応させながら、学校教育目標を達成していく過程（活動）である。その過程（活動）こそが学年経営であり、「3年間を見通した学年目標の設定」が非常に重要であると考えられる。

学校組織マネジメントとは・・・

「学校の有している能力や資源を開発・活用し、学校に関与する人たちのニーズに適応させながら、学校教育目標を達成していく過程（活動）」

＜学年主任の実務＞

- 1 学校のミッションや重点目標を意識した学年の目標作り
- 2 学年内分掌の編成



- 
- 
- 3 管理職・分掌・他学年・事務との連絡調整
  - 4 学年部内における連絡調整及び指導・助言
  - 5 教科指導・生徒指導・相談（生徒理解）
  - 6 保護者との連絡調整及び保護者への教育活動の広報
  - 7 その他（苦情対応・後輩教員の育成 等）

(3) 思春期の揺れと成長を共に歩む（講話）

＜思春期の課題＞

- 1 心身の変化（性的側面含め）を受け入れる
- 2 衝動コントロールの方法を身につける
- 3 自分の頭で考えて、自分で決める
- 4 その責任をとる（能力を把握し限界を知る）
- 5 親密な関係を築く
- 6 適度な対人距離を身につける
- 7 適切な相手に適切な援助を求める力をつける

5 まとめ

「生徒がより豊かに生きるために」

## 令和2年度 研修対象者・研究会等参加者一覧

### 【センター研修】

#### ◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

7 実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）	石崎絵里香	<del>①5/21</del> ②9/15
33 高等学校新任学年主任研修講座	加賀谷大輔	<del>①5/15</del> ②6/25

#### ◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

13 高等学校道徳教育推進研修講座	今 聡	<del>6/11</del>
-------------------	-----	-----------------

※免許更新開始 宮野 雄成 河上 貴子 佐々木 一秀

## 編集後記

### 研修部員から一言ずつ

研修テーマ「生徒の思考を深める授業展開～授業の流れを明示して、学習意欲を喚起する～」ということで、本時の目標や授業の流れを明示するようにしましたが、そのこと自体がなかなか難しいことでした。学習意欲を喚起するというところまで持っていけるようにしたいと思います。

橘 克明

研修部を担当した時にいつも思うことは、私達の職業は謙虚に研修する気持ちを持ち続けなければならないということです。ただ、日々の授業や業務に追われてその気持ちを持ち続けることが難しい時もあるため、研修部が存在しているのだと思います。他の先生方と声を掛け合いながら、授業改善のための向上心を忘れずに生徒と向き合いたいと思います。

柏谷 亜紀子

今年度、初任研以来の研修部でした。「教師にとっては何回目かの授業であるが、生徒にとっては最初で最後の授業。生徒の心に届く授業を・・・」と言われたことを思い出しました。初心を忘れずに、これからも日々、研修に努めていきたいと思います。

河上 貴子

今年度の授業公開週間では、先生方が普段どのように本時の目標や授業の流れを明示しているのか、どのように生徒の学習意欲を引き出す工夫をしているのかに重点を置いて授業を参観しました。他教科ならではの工夫方法や、同じ商業科でもこのような方法があるのかなど新しい発見が多く、多くの手法を知り、自分の授業に取り入れることができました。来年度以降も授業公開週間だけでなく様々な機会に多くの先生の授業を参観し、自分の授業に取り入れていきたいと思います。

秋島 亜里紗

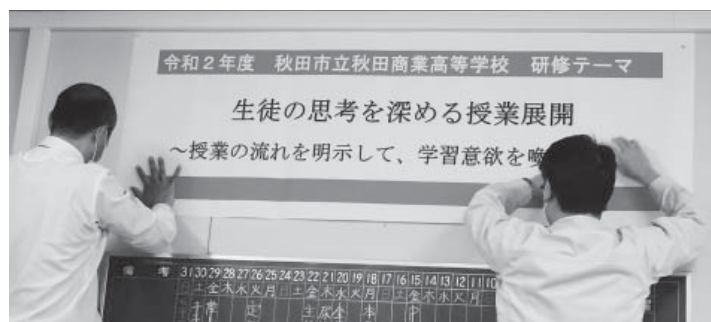
研修テーマは普遍的なテーマでもあり、時代の流れとともにアプローチの仕方が変わっていくのかもしれませんが、今回このテーマを掲げたことをなにかのきっかけに私自身、意識を持つようになりました。校内職員研修も大変勉強になり、日々の生徒とのふれあいの中でどうしても見えてこない生徒の心の声を聞く道具をいただいたように思えました。ありがとうございました。

守屋 大

秋商創立百周年という記念すべき年、なのに、新型コロナウイルスのせいで、研修関係の事業を大幅に縮小せざるを得ませんでした。通常なら、授業公開週間2回、校内職員研修2回行っていたものが1回になり、勝平中学校との連携事業、指導主事訪問時の研究授業等はありませんでした。そのため、『研修集録』も例年より頁数が少ないですが、先生方の御協力により無事発刊することができてほっとしています。

最後になりましたが、寄稿してくださった先生方、本集録を読んでもくださった皆様方、全ての方々に感謝いたします。

大関 由理



令和2年度 研修集録

発行日 令和3年3月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1

TEL 018-823-4308~9

FAX 018-823-4310

印刷所 社会福祉法人 緑光福社会





校 訓

感謝  
勤勉  
鍛鍊